

公表

事業所における自己評価総括表（児発）

○事業所名	こばんはうすさくら名取教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	23人	(回答者数)	23人	
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 20日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	9人	(回答者数)	9人	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 23日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の幅広い知識、経験を生かした療育内容を提供出来ている。	職員一人一人のスキルが高く、それぞれの知識、経験を生かしたプログラム提供が出来るよう日々話し合いを行い、職員間で共有し実施している。	会議、研修などを通し、全員が同じ考え、指導が出来るよう日々情報共有をしていく。 毎月の職員会議で、職員間でお互いを褒め合う「ありがとうフィードバック」を定期的に行い、お互いを称えモチベーションをあげ、相手を知る取り組みをしている。
2	職員教育の充実により、日々職員も成長し、療育に対する考え方、取り組みのスキルアップが出来ている。	フランチャイズ本部の様々な研修や、地域で開催される研修へ積極的に参加し、他事業所などの関係性も築き横のつながりを持てるよう交流を図っている。 研修を受けた職員は【研修報告書】を記録し、職員間で共有し全員が理解できるようにしている。	外部の研修に積極的に参加し、職員全員がスキルアップ出来るよう取り組んでいく。 他事業所などとの連携を図り、横のつながりをより強化していきたい。
3	保健センター、幼保関係、他事業所、支援センターとの連携や関係性が構築出来ている。	職員の今までの経歴から、多方面のつながりが持てている。 横のパイプがあるため、双方の本音や意見交換が出来、よりよい関係性が築けている。 送迎などで顔を合わせた際には、送迎時保育所、こども園の先生方ともお子さまの情報を共有していくよう意識的に行っている。	定期的に連絡をし、支援会議（ケース会議）などを率先して行い、双方間の情報共有を図り、職員間で更に共有し全員が周知出来るようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援（未就学児）の利用が多いため、放課後等デイサービス（小学生以上）の受け入れが現在難しい。	児発のお子さまの需要が多く、年長さんの小学校への移行が難しい。	来年度の予約問い合わせも多くなっているため、利用枠が増やせるよう今後検討していきたい。
2	送迎範囲があるため、多くの地域からの受け入れが難しい。	送迎範囲外の受け入れも検討していきたい。	保護者送迎が可能な方には保護者送迎でご利用いただいているが、今後は送迎範囲を広げられるよう検討していきたい。 送迎希望者の利用日を調整し、乗車人数を調整出来るように工夫していきたい。
3	午前、午後と利用者がいるため、保護者向けの研修や懇談会などを実施する機会が減っている。 (ハッピーファミリールーム)	保護者向けの研修や懇談会など、保護者同士が交流できる場を今後も定期的に提供できるようにしていきたい。	開催日を平日、土曜、祝日など幅広くプランを組み、どなたでも気軽に参加してもらえるように工夫していきたい。

公表

事業所における自己評価総括表（放デイ）

○事業所名	こばんはうすさくら名取教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数)	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 23日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の幅広い知識、経験を生かした療育内容を提供出来ている。	職員一人一人のスキルが高く、それぞれの知識、経験を生かしたプログラム提供が出来るよう日々話し合いを行い、職員間で共有し実施している。	会議、研修などを通し、全員が同じ考え、指導が出来るよう日々情報共有をしていく。 毎月の職員会議で、職員間でお互いを褒め合う「ありがとうフィードバック」を定期的に行い、お互いを称えモチベーションをあげ、相手を知る取り組みをしている。
2	職員教育の充実により、日々職員も成長し、療育に対する考え方、取り組みのスキルアップが出来ている。	フランチャイズ本部の様々な研修や、地域で開催される研修へ積極的に参加し、他事業所などの関係性も築き横のつながりを持てるよう交流を図っている。 研修を受けた職員は【研修報告書】を記録し、職員間で共有し全員が理解できるようにしている。	外部の研修に積極的に参加し、職員全員がスキルアップ出来るよう取り組んでいく。 他事業所などとの連携を図り、横のつながりをより強化していきたい。
3	保健センター、学校関係、他事業所、支援センターとの連携や関係性が構築出来ている。	職員の今までの経歴から、多方面のつながりが持てている。 横のパイプがあるため、双方の本音や意見交換が出来、よりよい関係性が築けている。 送迎などで顔を合わせた際には、学校の先生とお子さまの情報を共有していくよう意識的に行っている。	定期的に連絡をし、支援会議（ケース会議）などを率先して行い、双方間の情報共有を図り、職員間で更に共有し全員が周知出来るようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援（未就学児）の利用が多いため、放課後等デイサービス（小学生以上）の受け入れが現在難しい。	年長さんの小学校への移行が難しい。小学生の当所時間が学年により違うため、プログラムの時間配分が難しい。	来年度の予約問い合わせも多くなっているため、利用枠が増やせるよう今後検討していきたい。
2	送迎範囲があるため、多くの地域からの受け入れが難しい。 (仙台市、岩沼市からの受け入れが現在出来ていない)	送迎範囲外の受け入れも検討していきたい。	新規の放デイ受け入れが現状出来ないため、今後利用枠を増やせるよう検討していきたい。
3	保護者向けの研修や懇談会などを実施する機会が減っている。 (ハッピーファミリールーム)	保護者向けの研修や懇談会など、保護者同士が交流できる場を今後も定期的に提供できるようにしていきたい。 放デイ利用の保護者様の参加がほとんど無いため、参加して頂けるように声掛けなど工夫していきたい。	開催日を平日、土曜、祝日など幅広くプランを組み、どなたでも気軽に参加してもらえるように工夫していきたい。